

震災の教訓 初動体制を確認



市災害対策本部の災害情報（訓練）を生放送で伝える登米コミュニティFM

と強調しました。

当日は初期消火や応急救護、炊き出しなどの実動訓練のほか、宮城県沖で発生したマグニチュード9.0の地震により市内全域で停電や断水、通信障害が起きたと想定した図上訓練を行いました。

図上訓練として行ったのは、地区の自主防災組織による地域災害対策本部の設置訓練や地域避難所運営訓練などです。そのほか、新田地区、北方地区の訓練参加者を対象に、集団避難を想定しバスによる人員輸送訓練を実施しました。会場内には、防災用品の展示や災害時の通信サービスが体験できるブースも設けられ、防災センター内では地震の震度体験なども行われました。

迫の自主防災組織など520人が参加

市総合防災訓練が、6月10日に市消防防災センターで開催されました。今年の訓練は迫地域を重点地域に設定。迫町内50の自主防災組織の代表者や防災関係者など約520人が参加しました。

訓練の冒頭あいさつした布施孝尚市長は「昨年、東日本大震災などを経験して思うことは地域や関係機関との連携を一層強固なものとし、登米市一丸となって防災対策、災害復旧、復興に取り組まなければならない」と述べ「一人一人の防災意識が高まっている今こそ、本市の防災力の底上げを図る絶好の機会です」

訓練参加者の声



鈴木つね子さん
(迫町光ヶ丘東)

町内会の副会長をしています。防災訓練にはこれまで何度か参加したことがありましたが、避難所の運営訓練は初めてでした。訓練のグループでは、与えられた避難所のスペースをどう活用するのか、配給された食糧を限られた人数にどう配分するのか、被災者がベントを持ち込んだ場合、どのように扱ったらよいのかなどを話し合いました。これまでの訓練と違い戸惑うこともありましたが、でも、回数を重ねることが大事ですね。今回の訓練の内容は、災害時だけでなく、ボランティアを行う際にも役立つものだと思います。



小山裕吉さん
(迫町的場)

地区の防災部長という立場です。自主防災組織の初動活動訓練では、6人のグループで災害時の初動体制を話し合いました。災害発生時の自主防災組織が行う初動活動としては地区住民の安否確認を優先し、その後、発電機や水といったライフラインをどう確保するかなどについて意見を出し合いました。

訓練で特に感じたのは、災害時には司令塔となる地域の災害対策本部の役員が自ら動いてしまつと組織が混乱します。そのため、地区の班長さんなどを使って必要なことを行っていくことが大事だと思います。

考えています。

訓練を重ねれば対応力も高まります。毎年訓練を実施している組織と、そうでない組織では確実に対応力に差が出ます。今後はそうした格差をなくしていくことが重要で、自分を守り家族を守ることを最優先に考え、心構えや準備をすることで「いざ」というときの行動につながります。

自主防災組織の 防災力向上に力点



市総務部
中津川 英雄 危機管理監

今年の総合防災訓練は、自主防災組織の防災力の向上が大きな目的です。それは、自主防災組織が災害時に地域防災の重要な立場と役割を担っているからです。今回の訓練では自主防災組織の活動に必要な基本的な技術や対応力の習得、確認を行うため、初期消火や応急救護などの実動訓練に加え、図上

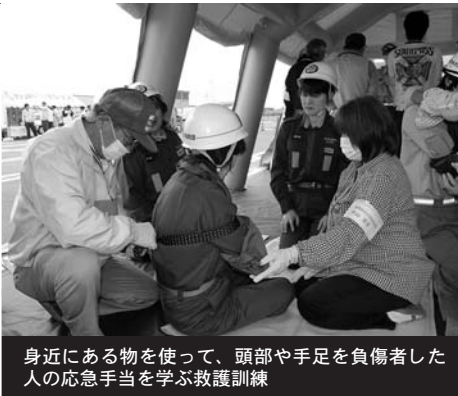
訓練で自主防災組織の初動活動対応訓練や避難所運営訓練を取り入れました。自主防災組織の初動活動対応訓練では、参加者を11のグループに編成し、災害時に地域でどのような活動をするのかなどを話し合っていたきました。参加した方々は当初戸惑いがあったようですが、それで



昨年の大震災を教訓に実施された避難所開設初期の運営訓練



炊き出し訓練は、災害備蓄品を中心とした食糧を使用して行われました



身近にある物を使って、頭部や手足を負傷した人の応急手当を学ぶ救護訓練



バケツリレーのほか、ポリ容器を使用した初期消火訓練も行われました



今年の訓練では、地震発生後の地域の初期活動を話し合う図上訓練が取り入れられました